

各評価項目を評価する着眼点

評価項目	評価基準	評価の着眼点
1. 事業者	【1-1】業務実績	着眼点1：【類似工事の実績の有無と内容の妥当性】 実績の規模・難易度が今回の案件と比較して妥当か。
		着眼点2：【実績の技術的水準（成果の質）】 土壌改良・灌水設備・安全対策など、技術的に高度な実績があるか。
	【1-2】実施体制	着眼点1：【技術者の能力・経験】 経験年数や類似工事の現場管理経験が十分か。
		着眼点2：【体制の明確性と安全管理能力】 施工管理・植栽・土壌・設備などの役割分担が明確か。
	計	
2. 技術提案	【2-1】 植物選定の 妥当性	着眼点1：【現地環境条件への適合性】 日照・風・乾燥・土壌厚など、軒先特有の環境に適合した植物を選定しているか。
		着眼点2：【耐暑性・耐乾性・耐陰性の根拠】 夏季の高温・乾燥に耐える科学的・経験的根拠が示されているか。
		着眼点3：【安全性への配慮】 トゲ・毒性・落下物・害虫発生リスクなど、施設利用者への影響を適切に排除しているか。
		着眼点4：【既存屋上緑化との調和性】 色彩・高さ・質感など、既存植栽との連続性・統一感が確保されているか。
	【2-2】 土壌改良の 技術的根拠	着眼点1：【土壌物理性の改善根拠】 透水性・保水性・通気性の改善方法が科学的に妥当か。
		着眼点2：【改良材の選定理由】 軽量性・耐久性・保水性など、採用する改良材の選定根拠が明確か。
		着眼点3：【土壌厚の確保方法】 軒先の荷重制限を踏まえた土壌厚の設定が合理的か。
		着眼点4：【長期安定性の評価】 流出・劣化など、長期的な安定性への配慮があるか。
	【2-3】 灌水計画の 合理性	着眼点1：【灌水方式の妥当性】 自動灌水・手動灌水の選択理由が環境条件と維持管理体制に適合しているか。
		着眼点2：【乾燥対策の有効性】 マルチング・保水材・散水頻度など、乾燥対策が具体的で効果的か。
		着眼点3：【点検・凍結対策の実効性】 冬季凍結防止、日常点検の容易性など、維持管理を考慮した設計になっているか。
	【2-4】 施工方法の 安全性と確実性	着眼点1：【利用者安全への配慮】 落下物防止対策、立入禁止区画設定など、安全対策が具体的か。
		着眼点2：【施工手順の合理性】 既存芝撤去、基盤材施工、植栽作業などの手順が合理的で確実か。
		着眼点3：【作業環境への配慮】 放課後児童クラブの活動時間・騒音・利用者動線への配慮が適切か。
	計	
3. デザイン性	【3-1】 景観性 （色彩、季節変化、 調和）	着眼点1：【色彩計画の適切性】 屋上緑化との色彩調和、季節ごとの色の変化が美しく計画されているか。
		着眼点2：【季節変化の表現力】 四季を通じてボリューム・色彩が維持され、季節感が感じられる構成か。
		着眼点3：【施設全体との調和性】 建物のデザイン・屋上植栽との連続性が確保されているか。
	【3-2】 維持管理を考慮 したデザイン	着眼点1：【管理負担の軽減につながる構成】 剪定頻度・除草量・灌水量など、管理負担を軽減する工夫があるか。
		着眼点2：【枯損しにくい植栽構成】 耐性の高い植物の組み合わせにより、枯損リスクを抑えたデザインになっているか。
		着眼点3：【設備の視認性・景観配慮】 灌水チューブ・土壌などが見えないよう、景観に配慮した配置になっているか。
	計	
4. 維持管理 性	【4-1】 年間管理の容易さ	着眼点1：【年間管理スケジュールの妥当性】 剪定・施肥・除草などの頻度が現実的で、町の管理体制に適合しているか。
		着眼点2：【管理作業の安全性・効率性】 管理作業が安全かつ効率的に行えるか。
		着眼点3：【設備点検の容易性】 灌水設備・排水設備の点検が容易な構造になっているか。
	【4-2】 枯損リスクの低減	着眼点1：【植物の耐性評価】 耐暑性・耐乾性・耐病害虫性など、枯損リスクを低減する植物選定になっているか。
		着眼点2：【土壌・灌水の安定性】 土壌改良・灌水計画が枯損防止に十分寄与する設計になっているか。
		着眼点3：【補植計画の明確性】 枯損発生時の補植方針が明確で、長期的な景観維持が可能か。
	計	
5. プレゼンテー ション	【5-1】 提案内容の妥当性	着眼点1：「なぜその植物なのか」「なぜその基盤材なのか」が明確なものであるか。
		着眼点2：町のシンボル施設としての景観性への配慮が具体的であるか。
		着眼点3：維持管理コストの低減に対する工夫があるか。
	【5-2】 説明の明瞭性	着眼点：図面・写真・完成イメージなどの視覚資料が効果的に使われており、説明が分かり易く、完成イメージが具体的で、審査側が想像しやすいか。
	【5-3】 維持管理の実効性	着眼点：「施工後に困らない」計画になっているか。
	計	
5. 価格項目	【5-1】 施工費の妥当性	着眼点：撤去、下地調整、植栽、設備などの内訳明細が具体的で、「一式」を多用せず数量・単価の根拠が明確か。
	【5-2】 コストパフォーマンス	着眼点：施工費の中に「施工後〇年間の無料枯損保証」や初期補植費用が含まれるなど、保証体制の費用対効果が高いか。
	【5-3】 年間維持管理費 の妥当性	着眼点：引き渡し後5～10年間の定期点検、剪定、薬剤散布、水道代などのランニングコストが明示されているか。
	【5-4】 見積金額 そのものの評価	得点 = $\frac{\text{全提案者の中の最低見積価格}}{\text{当該提案者の見積価格}} \times \text{価格項目の満点}$
	計	
	合計	

●評価点数

5（大変優れている）	：要求水準を大きく上回り、独自の工夫や高度な技術的根拠・実証データがある。
4（優れている）	：要求水準を満たしており、具体的かつ実現性の高い提案・配慮がなされている。
3（標準的である）	：要求水準を最低限満たしているが、特筆すべき工夫や独自の配慮は見られない。
2（やや不十分）	：要求水準を満たさない恐れがある、または説明・根拠が一部不足している。
1（不十分・不可）	：提案内容が著しく不足している、または実現不可能と判断される。